

71 回生 総合理学科 特別講義 「科学倫理・医療倫理を考える」

日程：平成 28 年 12 月 19 日(月) 2 限

講師：神戸新聞社 報道部 武藤 邦夫氏

内容

アンケート

A … 大変そう思う B … ややそう思う C … あまりそう思わない D … 全くそう思わない

1. 科学倫理・医療倫理に関する基礎知識が身についた。 A B C D

2. (既知と課題の区別)自分にとっての「未知」を説明できる。 A B C D

3. 自らの課題(「未知」の内容)に対して意欲的に努力することができる。 A B C D

4. 問題点の関連から取り組む順序(まず何に取り組むべきか)を考えることができる。 A B C D

5. 疑問に思う内容を、質問を前提にまとめることができる。 A B C D

_____番 氏名_____

アンケート集計

1. A - 11人 B - 22人 C - 1人 D - 1人

- ・技術や倫理観について、病院側・患者側・世間など、多面的に考えることが重要。
- ・世論に流されず、対象となる人(患者)の意思を尊重すべき。
- ・正しい答えはないのではないか。
- ・生体肝移植の成功率は極めて低く、たとえ正当な方法で行っていたとしても患者の生死で病院の価値や信頼度の変動すること。
- ・「STAP 細胞」の件は、倫理観がないと科学が成り立たないことの例である。
- ・実験は誰が実施しても同じことができる再現性と普遍性を持つ必要がある。
- ・論文の正確性を求める必要性。

2. A - 6人 B - 11人 C - 17人 D - 1人

- ・知らないことが多すぎて説明できない。
- ・既知の事実から応用・課題への糸口を見つける。
- ・倫理問題に関して、どのような議論がなされているか。

3. A - 17人 B - 16人 C - 2人 D - 0人

4. A - 9人 B - 17人 C - 9人 D - 0人

- ・報道されている内容を注視する。メディアごとに伝えていることが違うので、その違いは何か、また、その違いがどうして生まれるのかを考える。
- ・文献を調べる。→ 新たな疑問・仮説を考察。
- ・身近な医療関係者に質問。

5. A - 5人 B - 17人 C - 12人 D - 1人

- ・調べたらすぐに答えが分かることを質問せず、深いところまで聞けたらよかった。